

第3学年 国語科学習指導案

平成26年6月20日（金）第5校時

1 単元名 「読んで、考えたことを発表しよう」

教材名 「海をかつとばせ」

2 単元の目標

- ・場面に移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化、心情などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
- ・文章を読んで感じたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくことができる。
- ・条件に合わせて文章を書き、それを読み合っ、感想を述べ合うことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○登場人物と自分を比べながら読もうとしている。	○会話や心情表現、行動を表す文、語句に着目し、それから人物の気持ちや人柄がわかることを理解して読んでいる。 ○「わたしだったら」「ぼくも」などの観点で表現し、お互いに違いがあることに気付いている。	○文章から様子を表す言葉を見つけ、それらの言葉を使って短文を使って作っている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

3年生になって初めてのファンタジー教材である。本教材には、擬態語、擬声語や比喻、色彩語を使った表現の工夫が多く見られる。また行動や会話、様子を表す言葉の端々に主人公の気持ちの変化や人物像を捉えられる表現が組み込まれている。

本単元では、根拠となる叙述を明らかにして場面ごとに主人公の性格や気持ちの変化を読み取ることを大切にしたい。また自分と登場人物を比較しながら考えたことを交流することによって、仲間の考えなどから自分の考えを深め、物語の世界を楽しむことを実感できるようにしたい。

(2) 教材文について

「海をかつとばせ」は、野球をしている少年がなんとか試合に出たいという願いをもち、特訓するために訪れた浜辺で空想の世界の男の子と出会い、一緒に練習をする物語教材である。場面構成は、時間の順序で5つに分けられているため、場面の移り変わりをつかみやすくなっている。また少年の行動に従って物語が展開されているため少年の行動や口調の変化、情景描写などの叙述が多く使われており少年の性格や気持ちの変化、情景などもつかみやすい。児童は自分と同じくらいの年の主人公に自分を重ね合わせて読み進めることができると考える。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

(1) 4つの思考の型を取り入れた言語活動

(2) 「物語文を読む10の観点」の活用

(3) 学習環境の工夫

- ・主人公の気持ちに共感できるように児童が夢中になっていることをカードに書き、掲示する。

(4) ワークシートの工夫

- ・一単位時間ごとにワークシートを用意し、考える場面を限定することで、児童が課題に取り組みやすくなるようにした。また、サイドラインを引くために本文を入れ自分の考えを書き込めるようにした。

(5) 発問の工夫

- ・児童が叙述から離れた想像を広げないように、焦点化した発問をする。

6 学習指導計画 (全9時間)

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読んで初発の感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がいちばんがんばっていることを交流する。 ・題名から登場人物や展開を想像し、教師の模読を聞く。 ・初発の感想をもち、ワタルと自分とを比べて、似ているところや違うところを発表する。 	【関】自分と登場人物とを比べながら全文を読み、感想をもっている。(発言・ワークシート)
	2	物語のあらすじをつかむ。	<p>物語のあらすじをとらえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10の観点に基づき、物語の構成を捉える。 	【読】物語の設定、人物、事件を読み取られている。
2	3	第一、第二場面を読み、特訓をするワタルの行動から、ワタルがどんな人物か読み取る。	<p>ワタルがどんな人物か考えよう (第一課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワタルの行動や気持ちから、どんな人物か分かるところにサイドラインを引き、考えたことを書き込む。【選択・類推】 <p>「なんとか出たい」「こわいのをがまんして」「大あわてで」</p> <p>場面の様子を表す言葉はなんだろう (第二課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子を表す言葉に着目し、場面の様子を想像する。【関係付け】 <p>「ヒュルヒュル」「ぐうん」「ザザー」「ぺたん」「ゴオーツ」</p>	【読】登場人物の行動や会話、気持ちを表す文や語句に着目し、登場人物の人柄について考えている。(ワークシート)
			<p>男の子と出会ったときのワタルの気持ちを想像しよう (第一課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワタルの気持ちが分かるところにサイドラインを引き、考えを書き込む。 <p>【選択・類推】</p> <p>「だれだ、おまえ」「見りゃ分かるだろ」「だから、これは練習さ。」</p> <p>「すたすた」はどんな様子だろう (第二課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子を表す言葉に着目し、場面の様子を想像する。【関係付け】 <p>「すたすた」</p>	
	4 5 6 本時	第三、第四場面を読み、ワタルの行動や男の子との会話、周りの様子から、ワタルの気持ちの高まりを読み取る。	<p>男の子と練習をしているときのワタルの気持ちを想像しよう (第一課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワタルの気持ちが分かるところにサイドラインを引き、考えを書き込む。 <p>【選択・類推】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワタルの気持ちの変化を考える。 <p>「あわててバットをふった」「もうむちゅうだった」「しっかりとむねをはり」</p> <p>【類推】</p> <p>「あわててバットをふった」「もうむちゅうだった」「しっかりとむねをはり」からワタルの気持ちの高まりを読み取ろう</p> <p>(第二課題) 【関係付け】</p>	【読】登場人物の行動や会話、気持ちを表す文や語句、色彩語に着目しながら、登場人物の気持ちを考えたり、想像したりしている。(ワークシート)
			<p>ワタルの気持ちの高まりが表れている文をさがそう (第一課題)</p> <p>(言葉の力)「観客の顔がバラ色」</p> <p>「スタンドの上のにぞくアドバルーンもまっかっか」</p> <p>「観客の顔がバラ色」「スタンドの上のにぞくアドバルーンもまっかっか」は何を表しているのか考えよう</p> <p>(第二課題)</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・赤はどんな感じがするか考える。 ・ワタルがしっかりとむねをはり、ダイヤモンドを一周している時の「赤」は何を表しているのか考える。【類推】 (言葉の力) 色彩語	
	7	第五場面を読み、波の子どもと約束をするワタルの気持ちを読み取る。	<u>波の子どもと約束をするワタルの気持ちを想像しよう</u> (第一課題) <ul style="list-style-type: none"> ・ワタルの気持ちが分かるところにサイドラインを引き、考えを書き込む。 【選択・類推】 「君たち、だれだ」「ぜったい来るからね」「せなかが、ほくほくあったかかった」 <u>ワタルはどんな気持ちで「ぜったい来るからね。」と言ったのだろう</u> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな気持ちでそう言ったのか、叙述をもとに想像する。【類推】 	【読】 登場人物の行動や会話、気持ちを表す文や語句に着目しながら、登場人物の気持ちを考えたり、想像したりしている。(ワークシート)
3	8 9	読み取ったことをもとに、ワタルや男の子の立場で日記や手紙を書く。	<u>読み取ったことをもとに想像して、手紙か日記を書こう</u> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことをもとに、気に入った場面を中心に書くことを広げる。 ・書いたものを友達と読み合い、感想を交流する。 	【書】 日記、手紙という形式の違いを理解し、条件に合わせて書いている。(ワークシート) 【書】 書いたものを発表し合い、意見を伝え合っている。(発言・観察)
4	1 0	同じくらいの子が登場する本の登場人物と自分を比べて、考えたことを発表する。	<u>本の登場人物と自分を比べて、考えたことを発表しよう</u> <ul style="list-style-type: none"> ・本の登場人物と自分とを比べて考えたことをまとめる。 ・まとめたことを発表し合い、感想を交流する。 	【関】 物語の人物と自分とを比べ、考えたことを発表しようとしている。(発言・観察)

7 本時の指導 (6 / 10時)

(1) 本時の目標

- ・色彩語が気持ちを表していることに着目し、ワタルの気持ちの高まりを読み取ることができる。

※本時は2時間続きで扱い、前時ではワタルの気持ちの変化について考えた。

展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	1 前時の振り返りをする。	・第四場面では、ワタルの気持ちが高まっていったことを確認す	

	<p>2 ワタルの気持ちが高まっていく様子を想像しながら第四場面を音読する。(一人読み)</p> <p>3 本時の第一課題を知る。</p>	<p>る。</p>	
	<p>ワタルの気持ちの高まりが表れている文をさがそう (第一課題) 【選択】</p>		
	<p>「会心の手ごたえ」 「白いボールは、白い鳥になって、かるがると空のかなたへとんでいく」 「ごうごうとどよめく」 「しっかりとむねをはり」 <u>「観客の顔がバラ色」</u> <u>「スタンドの上へのぞくアドバルーンもまっかっか」</u></p>	<p>・一つ一つの文の様子について確認をする。 ・「観客の顔がバラ色」「スタンドの上へのぞくアドバルーンもまっかっか」を取り上げる。</p>	
展 開	<p>4 本時の第二課題を知る。</p>		
	<p>なぜ「観客の顔がバラ色」「スタンドの上へのぞくアドバルーンもまっかっか」から、気持ちの高まりがわかるのでしょうか (第二課題) 【類推】</p>		
	<p>○どの言葉から、気持ちの高まりがわかるのか、考える。 →「バラ色」「まっかっか」</p> <p>○赤はどんな感じがするか考える。 「怒り」「興奮」「恋」「うれしい」</p>	<p>・バラ色、まっかっか→赤色であることをおさえる。</p>	<p>【読】色彩語が気持ちを表していることに着目し、ワタルの気持ちの高まりを読み取ることができる。 (ワークシート・発言)</p>
ま と め	<p>5 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>○ワタルの気持ちが色で表されていることを確認する。</p> <p>○本時の学習を振り返りながら、第四場面を音読する。(一人読み)</p>	<p>・ワタルの気持ちがだんだん高まっていく様子を想像しながら音読させる。</p>	
	<p>6 次時の学習のめあてをもつ。</p>		